

食しているところを採集したものである。また、南浜湿原のものも採集者の安藤氏によると湿地のヤナギトラノオのみを食害していたとのことであり、筆者のひとりである末長が2012年8月2日に実際に南浜湿原を訪れた時は、成虫は見られなかったものの多数の食痕が残っているのを確認している。

末筆ながら、貴重な標本をご恵与下さった愛媛大学ミュージアムの吉富博之博士と三笠市の安藤祐介氏に厚くお礼申し上げる。

## 引用文献

- Komiya, Y., 2005. Description of a new species of the genus *Galerucella* (Coleoptera, Chrysomelidae, Galerucinae) from Hokkaido, Northern Japan. *Elytra*, Tokyo, 33(1): 95-99.  
 滝沢春雄, 2011. 日本産ハムシ科生態覚書 (5). 神奈川虫報, (173): 35-51.

(末長晴輝 倉敷市老松町 3-14-33  
 クリーンピア 106 号室)

(南 雅之 武蔵野市吉祥寺本町 3-17-7)

## 【短報】石川県におけるキボシツブゲンゴロウの初記録

キボシツブゲンゴロウ *Japanolaccophilus nipponensis* (Kamiya, 1938) は、ゲンゴロウ科キボシツブゲンゴロウ属として知られる唯一の種で(森・北山, 2002), 最新の「環境省版レッドデータブック」では準絶滅危惧 (NT) に選定されている(環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2015)。石川県からは、これまでに40種のゲンゴロウ類が記録されている(渡部, 2015)が、本種は確認されていない。筆者は、石川県41種目となる本種を採集しているのここに報告する。なお、採集および標本の保管先は全て筆者である。

1ex., 金沢市大額町 碓川支流 (犀川水系), 18. III. 2016 (図1)。

1ex., 白山市相滝町 堂川 (手取川水系), 15. IV. 2016.

採集地点はどちらも砂の堆積した河川で、流れが緩やかな淵の水深がある場所に浸かった植物の根際から得られた(図2)。時期が悪かったのか個体数は少なく、2地点ともに1個体のみ確認に留まった。

本種は、「環境省版第2次レッドリスト」より準絶滅危惧 (NT) に指定されており(環境省自然環境局野生生物課, 2000), 全国的に希少であることや、レッドリスト掲載種として注目されやすいにも関わらず県内ではこれまで未確認であったこと



図1. 石川県産キボシツブゲンゴロウ。



図2. 本種の生息環境(碓川支流)。

などを踏まえると、石川県においても希少である可能性がある。一方で、断片的ではあるが2水系において生息が確認されたことから、より広範囲に生息する可能性も考えられ、生息状況を解明するための調査が望まれる。

## 引用文献

- 環境省自然環境局野生生物課, 2000. 無脊椎動物(昆虫類, 貝類, クモ類, 甲殻類等)のレッドリストの見直しについて。(2016年4月13日参照) <http://www.env.go.jp/press/1638.html>  
 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2015. レッドデータブック2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物—5昆虫類. 509pp. 株式会社ぎょうせい.  
 森 正人・北山 昭, 2002. 改訂版 図説 日本のゲンゴロウ. 231pp. 文一総合出版.  
 渡部晃平, 2015. 石川県におけるコマルケシゲンゴロウの初記録. さやばねニューシリーズ, (19): 55.

(渡部晃平 920-2113 白山市八幡町戊3番地  
 石川県ふれあい昆虫館)